

「記憶が残せない子」の理解について

-自閉症当事者の語りから見てきた記憶の仕組み-

今日一番楽しかったことは何だった?と聞いても答えられない…。「答えられるはずなのに…」という子、いませんか?今回は自閉症圏にある人の記憶の仕組みについて、東田直樹氏やニキリンコ氏などの当事者の語りから見てきた仕組みについて紹介します。実は、感覚過敏や自閉症の特性が記憶をスゴく阻害しているんだよ!という話。

1. 基本的な記憶の仕組み

人が記憶を使うステップは図1のように3行程のモデルで示すことができ、①脳が情報を受け取る ②保つ ③呼び出す(表出する)となります。①脳が記憶を受け取ると、脳みその中の脳幹に近い部分の『海馬』という記憶の交通整理を司る部分(図2)が、まず覚えるべき情報なのか、覚えなくてもいい情報なのかを振り分けます。そして、一時的に使う記憶は「短期記憶(ワーキングメモリ)」として処理(②保つ)されて、意味づけや、感情が伴ったものは「長期記憶」として整理(②'長期的に保つ)され、随時③想起されます(図3)。

2. 3歳以前の記憶が残らない『脳』-幼児忘却の研究から-

大半の人は3歳以前の記憶をもっていない、ないしは後日の意味づけや両親の語りなどによって最初の記憶をねつ造されていると言われています(先生の最初の記憶はどんなのですか?)。この原因として考えられているのは、記憶を司る『海馬』が完成するのがおおよそ3歳だからであり、脳の中の交通整理ができない場合の長期記憶の保持限界は2週間程度なことです。ここから「海馬」の働きに障害のある児童は、長期記憶の保持限界が2週間程度であるということが推測されます。

3. 強い感情が伴うと長期記憶に振り分けられることと『感覚過敏』

強烈に記憶に残っていることってありますか?近くに雷が落ちたこと?へびを見かけたこと?様々あると思うのですが、「衝撃的!感動!ガーン!」と感じたことが「強烈な記憶」として脳に保持されていると思います。一方で感覚過敏を持ち合わせている人は、絶えず感覚の過敏(身体接触・大きな音・声)が体験や経験にくっついてしまうので、本来的に「忘れる」方に交通整理されるはずの情報まで、長期記憶に放り込まれてしまいます。大昔の事を昨日のように覚えている、フラッシュバックしてしまう…などは、このような感覚過敏と記憶の関係に基づいています。別の言い方をすれば脳の中での「記憶」の交通整理が感覚過敏によってめちゃくちゃになっているともいえます。目の前に雷が落ち続けている様な環境では記憶はできません(雷が記憶されますよね)。接触の多い先生、声がデカイ先生は接し方を考え直した方が良くかも(笑)。逆に好きな曲を作り、適正な音量で楽しむ取り組みや、身体接触の少ない相互の関わりは、安定した世界づくりを助け、その子の安定を高めるかもしれません。



図1 記憶の3ステップ



図2 交通整理係『海馬』

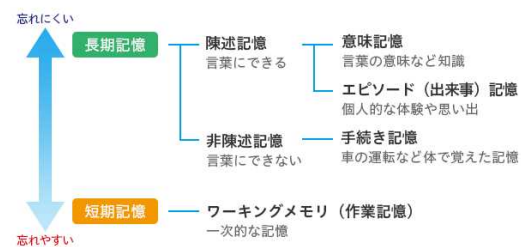


図3 記憶の種類
画像元:「認知症ネット」



図4 衝撃的なことは長期記憶化する



図5 感覚過敏で交通整理できない

4. セントラル・コヒーレンスの障害が情報の読取りを邪魔している

私たちはプリントから情報を読み取る際には、最初からプリントの要点の部分を読み取ろうとすることができますが(そういうのをセントラル・コヒーレンス((葉ではなく森を見る能力))といいます)、自閉症圏の人たちは、情報が「勝手に」自分の中に飛び込んで来てしまっ、必要外の情報を剥がして、剥がして、やっと気持ちを集中させることができると言われています。図6で言うなら

① 三菱のロゴ!ミツビシ!ミツビシ!!(衝撃!)

② あっ、えんぴつのマークだったのか…

③ えーっと、えーっと。所でノートのどこを見るんだ?

という感じで、ロゴを見れば良いのか、えんぴつを見れば良いのか、ノートを見れば良いのか、もはやこの段階で情報の読取りにつまづいている。東田直樹氏も著書の中で蝶々がどのように見えるのかについて言及して①「白!ホワイト!」②あれっ、羽がある、、、③蝶だ!とやっと認識できるとしています。だからこそパーティションや、1枚1問プリントなどを使って構造化するんですね。

5. 記憶が『散在する点』として残っていく子どもたち

記憶の残り方を当事者は以下の様に表しています。

記憶は、アニメにはならず、紙芝居かさもなければコマ毎に砕け散ったマンガとなる -ニキ・リンコ(2005)-

思い出す行為は記憶と記憶の間をバツタのようにピョンピョンと跳び回っている感じ - 東田直樹(2010) -

図7の a ように通常発達の人では過去から未来に向かっての時間の軸の中で行動をしていて、現在の行動について、過去の経験を引き出して、照らし合わせて(b)、未来を予測して「回答」や「表出」につなげています。一方で、自閉症圏にある人の記憶の時間の軸は、上記のニキリンコ氏や東田直樹氏の言葉にもあるように「記憶が散らかっている」状態(図 7c や図 8 の PC のデスクトップのように!)なっていると推測できます。だから、記憶を引き出しにくく、表出しにくいのです。だから順番・予定表が助けになるのですね。

6. ワーキングメモリや聴覚的把持の働きにくさ

例えば数学の難問を解く際に、既に計算の終わった行程については、どんどんと忘れて、次の過程に頭を働かせることによって、スムーズに計算ができます。また例えば小説などを読む際には読み終わった部分の1字1句に気持ちを囚われることなく、「あらすじ」程度を把握しながら読み進めていくからこそスムーズに本が読み進められます。しかし、発達障害圏の方には、上記1~5のような情報の振り分けの苦手さ、情報の読み取りの難しさなどが関係して、過去情報を「忘れ」、新しい情報を「得る」ことが上手にできないために、「長い説明が理解できない」「長い行程の作業を把握できない」という姿につながると考えられます。

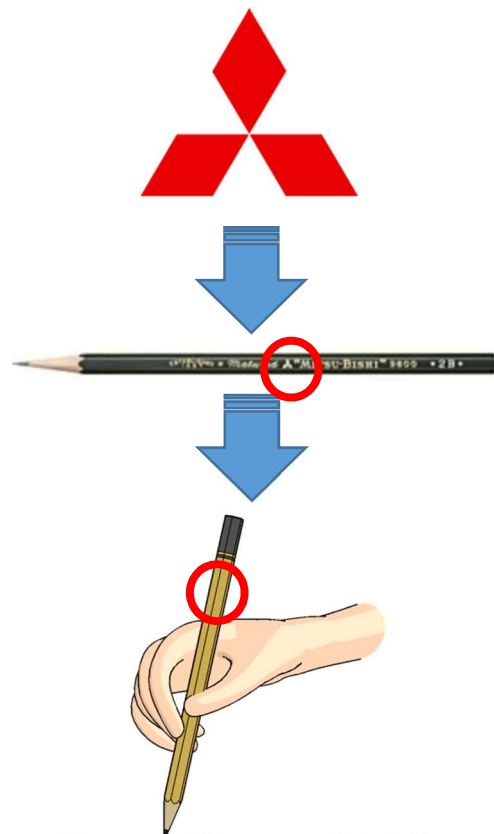


図6 シングルフォーカスと情報

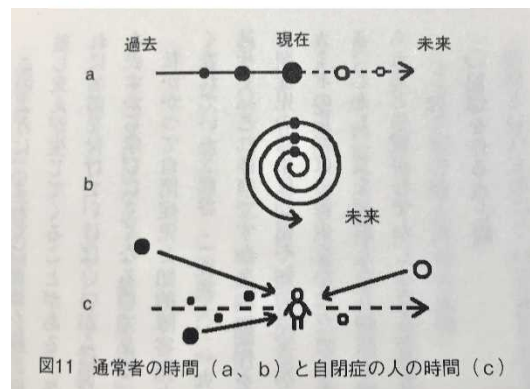


図11 通常者の時間 (a、b) と自閉症の人の時間 (c)

図7 記憶の残り方の違い
画像元:『自閉症と感覚過敏』P54
著:熊谷高幸 新曜社

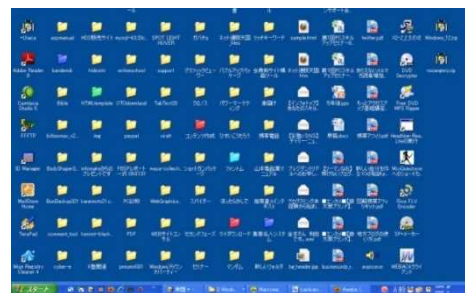


図8 散らかる記憶のイメージ



図9 情報の整頓の苦手さ